



■ 実践内容

柏原小学校では、総合的な学習の時間や理科学習の時間を使い、学校の横を流れる「樋井川」の水質を水生生物の調査をすることで調べ、校区の自然環境に目を向けるきっかけとなる学習を行った。校区の素晴らしい自然環境は、水系のみにとどまらず、多種多様な植物や、それらを利用している動物にまで広がっている。そのことに気づかせることで、子ども達は、それぞれのテーマで『調べよう！ 柏原の自然環境』の調査に取り組んだ。

子ども達が選んだテーマは、水棲生物・昆虫・樹木・きのこなどの種別に生物を調査するグループと、羽黒の森や柏原自然公園などの自然環境が残った場所を総合的に調査するグループに分かれた。

晩春から秋にかけて継続的に観察・調査を行い、調査結果を他のグループや校内・地域に向けて発信するように計画している。

■ 実践成果

- 水棲生物・・・調査の結果、樋井川の水は、「きれい」～「すこしきたくない」水域に見られる水棲生物がいることがわかった。
- 昆虫・・・多種多様な昆虫が確認できた。平地に生息するものから、ヒグラシなど山麓に生息する昆虫が確認できた。
- 樹木・・・校区が油山の裾野に位置することや緑が多い環境にあることから、多種に渡る樹木を確認した。しいやかしのどんぐり類が豊富であることに子ども達は驚いていた。
- きのこと・・・校区の「きのこ名人」に指導をお願いした。校区に雑木林が多いことから、多種多様のきのこが見つかった。
- 羽黒の森・・・学校の近くの寺社林で、照葉樹の森が残っている。樹木や昆虫・きのこを調査した。
- 柏原自然公園・・・片縄山の斜面に作られた自然公園で、樹木・水生生物・昆虫・きのこなどの調査を行った。

■ 実践ポイント

子ども達の要求に対処できるよう、「きのこ名人」や「昆虫博士」に協力をお願いした。このことで、子ども達の自然環境に対する興味・関心を高めることができ、柏原の自然環境が素晴らしいものであることに気づくことができた。